教えて？子供の居場所

①プロローグ

（ナレーション）

皆さんは「子供の居場所」という言葉を聞いたことはありますか？

「子供の居場所」とは家でも学校でもない子供たちが安心して過ごせる「第3の居場所」のことです。

（子供の声）

「教えて！子供の居場所」

（ナレーション）

「子供の居場所」。

その代表的なものがこちらの3つです。

１つ目が「子ども食堂」。

こちらは地域の人たちが主体となって運営する、無料、または低額の食堂です。

公民館などで多く開催されています。

2つ目は「無料学習支援」。

経済的に苦しい家庭の子供たちに勉強を教える「現代の寺子屋」とも呼ばれている場所です。

3つ目は「プレーパーク」。

こちらはプレーリーダーと呼ばれる大人の見守りのもと、子供たちのやってみたいを出発点に自ら発見や挑戦を繰り返しながら自由に遊びを生み出せる場所です。

今、地域で広がりを見せている「子供の居場所」。

埼玉県内の様々な事例をご紹介していきましょう。

②「子供の居場所って何？」

（ナレーション）

２０１９年にオープンした子ども食堂「長くつ下のピッピ食堂」。

素敵な歌声を披露してくれたのは、運営者の勝田眞弓（かつたまゆみ）さん。

本業はボイストレーナー。子どもたちには「ピッピのおばさん」の愛称で親しまれています。

（勝田さん）

ピッピになって、子供たちに楽しいことやなんか居場所として作ってあげたいなと思ったから

ピッピにしました！

（ナレーション）

「長くつ下のピッピ」は、スウェーデンの子供向け小説。世界中で人気がある不朽の名作です。

（勝田さん）
ピッピは大きなお家に猿と馬と3人で暮らしているんですけど、みんながゴタゴタ荘って言うんですけど、そこに小さい子供たちが集まってきたり、おじいちゃんおばあちゃんが来たり、色んな人が来るんだけども、ピッピを通して悩みを解決したり、居心地のいい場所なんですね。
だから、子ども食堂をやるにあたって、そういう居場所づくりがみんなが来てゴタゴタして
楽しく笑顔で帰ってくれる場所がいいかなと思って。

（ナレーション）
そんなピッピ食堂を支えているのは、44名のボランティアスタッフ。

（ボランティア）
裏表のないあのとおりの方です。親御さんに対しての思いもとても強くて、言う時はちゃんと叱るし、褒める時は褒めるし、そんな感じで毎日やっていますね。

（ナレーション）
コロナ以降は、テイクアウトできるお弁当をメインに提供しています。
この日は8家族分、全部で32個のお弁当を作りました。
午後5時、続々と親子がやってきます。
利用者はおよそ70組の親子。
こども食堂は、困っている子供に限らず、誰でも参加できるところが増えています。

（勝田さん）
テイクアウトではあるんだけど、入ってくると、あれ？今日怒られたな、とか、あれ？今日眠いのに連れてこられたな、とか、お母さん会社でなんかあったなとか、色んなのが瞬時に分かるようになるんですね。
あそこで手を振る時はみんなニコニコしているようにと思っています。
お母さんも。

（勝田さん）
おばちゃんってどんな人ですか？

（子ども）
面白いです！

（勝田さん）
あなたはおばちゃんのこと嫌いですか、好きですか？

（子供）
大好きです！

（勝田さん）
ありがとうございます！

（子供）
おばちゃんのこと大好きです！

（勝田さん）
ありがとうございます。

（母親）
子供が４人いるんですけど、たまにやっぱり手が足りない時とか、こういう場所があると凄く助かります。
おばちゃんのパワーとかをもらって、明日も頑張ろうっていう気持ちになれる、心の休憩場所みたいなところでもあります。

（ナレーション）
地域の人たちの温かい想いによって運営されている「子供の居場所」。
「長靴下のピッピ食堂」は、今日も利用者の笑顔で溢れています。

（勝田さん）
子ども食堂をやっているおじちゃんおばちゃん達って、お節介だと思うんですよ。
うん、お節介屋さん。
なんかほっとけないっていう。
昔はお節介だらけだったんだけど、今お節介することみんなビビってるんだけど、本当はみんなお互いにお節介屋さんやってくれたほうがいいんだけど、お節介やってみんなが笑ってくれれば、お節介も万歳ですね。
そんな想いでいつもお節介してます。

③「子供たちに聞いた、ここが私の居場所！」
（ナレーション）
入間市にある「アイクルフリーベース」。
ここは、中学生以上が対象の若者たちの広場のような場所です。

（村野さん）
学校に毎日元気に行っている子、頑張って部活もやっている子、その他、不登校の子、不登校

気味の子、色々な若者が来ています。
私たちアイクルは、この場所で20年間子育て支援拠点をやってまいりました。
20年前に赤ちゃんだった子は、今はもう二十歳になっているんですけども、大きくなったら悩みがどんどん変わっていくんですね。
その保護者の方から学校に行けなくなっちゃったよとか、学校でいじめられてるよなんていう、大きい子ならではの相談がたくさん入ってくるようになりました。
青少年の子たちがどこに悩みを相談したらいいんだろうね、どこに居場所があるんだろうねと言って調べたら、入間市にはそういった場所がなかったんですね。
だったらここでやろうということで週に1回ですけども開催しております。

（ナレーション）
アイクルフリーベースのコンセプトは「オスキニドウゾ」。
スマホをいじる子や、カードゲームで盛り上がっている子。
ゲームに熱中する子や、この騒がしい環境の中で勉強している子など様々。
ここでは、学校や学年を超えた若者たちがそれぞれ自由な時間を過ごしています。
料理好きな子たちが中心となって夕食作りが始まりました。
この日のメインは、みんなが大好きなカレーライスです。

（村野さん）
メニューはその日によって、例えばフードバンクさんにお肉をもらったよとか、近所の農家さんに玉ねぎをもらったよっていうのがある時には、今日はこれがあるよってことをこちらで提示をして、その中で考えるんですが、みんなからこの子は調理が上手だからいうことでシェフって呼ばれて一生懸命やっている子もいるし、その子に教わってやる子もいるし、自分は今まではやったことはないけれども、みんなのために何か作りたいということで調理をしてくれる子もいます。

（ナレーション）
この日は支援でいただいた魚のお刺身も食卓に並びました。
さらに食後のデザートには、手作りのアップルパイも。

（子供）
「いただきます！」

（ナレーション）
みんな、今日のカレーの味はどうかな？

（子供①）
「めっちゃ美味いです。」

（子供②）
「最高です。超美味しい。」

（ナレーション）
みんなにとって、ここアイクルフリーベースはどのような場所なのでしょうか？

（子供①）
「みんな違うことをしてるのにみんなすごい楽しそうにしていてとても良い環境だなって思います。」

（子供②）
「みんな人それぞれに色んな事情があるんですけど、みんなで仲良くできていい所だと思います。」

（子供③）
「すごい居て心地よいです。毎週来たくなっちゃうような感じですね。」

（子供④）
「めちゃくちゃ楽しいですし、もっと喋りたいって感じですかね。」

（子供⑤）
「色んな人がいて色んなことが吸収できてとても楽しいです。」

（子供⑥）
「家より安心できる第二の家みたいな感じ」

（子供⑦）
「僕にとっては生活の一部みたいな欠かすことのできない場所。自分の居場所になっているので、すごい大事な場所です。」

（村野さん）
学校の中だと同じ年代の同じような人たちが一つのクラスにいますよね。
フリーベースでは様々な年代の様々な地域の子が集まっています。
そこに私たちのような大人もいますので、斜めの関係も生まれます。
そうした平たいだけじゃない関係性を作れるのが、子供の居場所の良さではないかなと思っているので、色々な人が集まって、ワイワイガヤガヤやったらいいなと思います。

④「子供の居場所の運営者に聞いてみた」

（ナレーション）
蕨市にある富士見公園。

こちらで、第3土曜日に開催しているプレーパークが、外遊びを考える会の「どろんこの王様」です。

（新妻さん）
「子供たちの自由な遊びって大事じゃない？」って言うところで、子供たちの自主的な遊びを大事にしたいと思っている活動の場ですね。

（ナレーション）
「どろんこの王様」の代表、新妻（にいつま）さんがプレーパークを始めたのは、今から18年前。
県内で開催しているプレーパークの先駆者の一人です。
「どろんこの王様」のコンセプトは、「自分の責任で自由に遊ぶこと」。
遊び道具は大人が準備しますが、遊び方は子供たちの自由な発想に任せています。

（新妻さん）
やっぱり自分の経験で、色んな所でヤンチャなこともしたり、大人達に隠れて遊んだ遊びの中にも、色々と考えながら遊ぶこともあるし、やっちゃいけなかったんだって言うのも学びだし、そういう今の子供たちには、これをやっちゃダメなんだよっていう実体験がないなと思って。

（ナレーション）
初めて遊びに来た子供たちに新妻さんが必ず最初に伝える言葉があります。

（新妻さん）
「この場は自由に遊んでいいよ。」ってまず最初に言うんですけど、初めての子には。
だけど自由っていうことがどうしていいかが分からない子供たちが多いですよね。
お母さんにいちいち「これはやっていいの？」って聞きにいく子供たちもやっぱりたくさんいますし、そういう時はすかさず「いいんだよ。」てこっちから声をかけたりとかしますね。
虫取りにずっと専念してるとか、自分たちが興味を示した所で遊ぶので、火自体見たことないっていう子供たちもたくさんいて、もちろん火おこしはしたことない。
水も自分たちで運ぶっていうことって今する機会がないよねっていうのを大人の方達も今見ながら言ってましたね。
基本的にはちょっとした怪我も大事なんじゃないかって、経験することによって分かるんじゃないかっていう考えで、なるべく口出しはしないように見守っている感じですね。

（ナレーション）
新妻さんが目指す、子供たちが本来あるべき姿の遊び場。
その想いに賛同する親子が次々と集まります。

（母親）
最初に来た時、ノコギリを一緒に使わせてくれたり、釘をやったりとか、大人は本当は危ないとかダメだよって言うところをやらせてあげて、子供も凄く喜んでいたので、やらせていいんだなってびっくりしたよね。

（父親）
自分たちは子供の頃とかよくやっていた記憶はあるんですけど、いざ自分の子供にそういう環境を与えるというのは、なかなか個人では難しいかなって思うのでこういう場があって助かります。

（ナレーション）
子供を育てる環境を地域で作る。
ここは親子で成長できるみんなの居場所にもなっているようです。

（新妻さん）
地域全体が居場所になればいいなと思います。
こうやって特別に月に何回開いている居場所ではなくて、やっぱり地域が色んな眼差しで子供たちのことを緩やかに受け入れてくれたら、居場所っていうのは、どこにでも発生するんじゃないかなと思うんですよね。
本当は、街全部が居場所になればいいなと思っています。

⑤「子供の居場所を支える人たち」
（ナレーション）
川越市にあるチームひだまりの無料学習支援塾「ひだまり塾」。
こちらでは、経済的な理由などで塾に行きたくても行けない小中高校生を対象に、毎週土曜日に無料の学習支援を行なっています。

（上蓑さん）
ここに来たら強がらなくていい。
分るふりもしなくていい。
そのままの自分を出せる場所なんです。
子供が分かったとか、できたっていう時の目がキランとする顔、あれが大好きなんですよね。
そういうつながりが地域の中にあるってとっても素敵だなって思って取り組んでいます。

（ナレーション）
子供たちに勉強を教えているのは、地域のボランティアの皆さん。
こちらの兵藤さんは、元特別支援学校の教員です。

（兵藤さん）
学習支援の必要性というのを折に触れ耳にし、自分も子供たちと関わる仕事をしてきたものですから自分の中にもそういう想いがあったものが目覚めたというか。
私たちは子供たちが成長していく上で色んな支えにはなりますけれども、最終的には自分で考えるための、そういう基礎的なものを作る手伝いをしているなっていう風に思っています。、

（ナレーション）
「ひだまり塾」では、こうした思いを抱くボランティアが集まり、子供たちに日々勉強を教えています。

（上蓑さん）
いくら自分でやりたいと思いましても、一人ではできませんので、たくさんの仲間がいてくれないとできないと思っています。
志を同じくするっていうんですかね、子供のことを思って、そして同じような考え方で進んでくれる方がとても大事と思います。

（ナレーション）
一方こちらは、「越ヶ谷こどもかふぇ食堂　ぽらむの家」。
毎週月曜日にお弁当の配布を行っています。

（青山さん）
４月からお弁当の注文を受けて、ここで食べていくのもいいよっていう風にして、食べたい子は食べていける、お弁当でそのまま持ち帰る子は持ち帰るというスタイルに変えています。
今日は餃子の皮をたくさん寄付でいただいて、餡を作って今日はみんなで餃子を作ろうか
ということで餃子を作りました。

（ナレーション）
この日、ボランティアスタッフとしてお手伝いをしていたのは、近隣の小中高生たち。

（学生ボランティア）
人との関わりが楽しくてやっています。
人見知りが自分はあるんですけど、少しづつ解消されていってるので、コミュニケーションが取れてすごくいいです。

（学生ボランティア）
感謝の気持ちをたくさん言われて、凄いやって良かったって思っています。
凄い楽しくてやりがいを感じていますね。

（青山さん）
とてもありがたいですね。
子ども食堂って引退をされた年配の方とかリタイアした方がほとんどの中で、現役の中高生が加わってくれることで、ボランティアさん達もすごく元気になっていますし、その姿を見るだけでみんなにこやかになってくれているので、非常に助かっています。

（ナレーション）
こちら、高校1年生の吉沢さんは、「ぽらむの家」でのボランティア体験が、将来の夢への道標となりました。

（吉沢君）
ここでボランティアをして、最初は別に夢もなかったんですけど、そういう福祉関係とか、子供に教えたりっていう感じもいいかなと僕は思いました。

（青山さん）
嬉しいですね、
それはお母さんからも聞いていて、感動しました。
すぐに「絶対ハグしようね」って電話越しで言って、また会いにきてくれて、もうすぐにハグしたんですけど。
みんなが付いてきてくれたり、みんなが賛同してくれて、私一人では絶対に成し得なかった。
これはボランティアさんのおかげ、皆様のおかげでこの場所が成り立っているなって毎日思っています。

⑥「子供の居場所ネットワーク」
（ナレーション）
誰もが利用できる、無料、または低額の食堂「子ども食堂」。
経済的に苦しい家庭の子供たちへ勉強を教える「無料学習支援」。
大人の見守りのもと、子供たちが自由に遊びを生み出す「プレーパーク」
こうした「子供の居場所」を地域内でネットワーク化しようという動きが広がっています。

（ナレーション）
加須市にある子ども食堂「すくすく広場」。
現在およそ35組の親子が利用しています。

（戸恒さん）
加須市では子ども食堂が5つ、フードパントリーが6つ、これが一つにまとまって一緒に行動して

いるというのが大事な特徴ですね。
市役所が、あるいは社協が直接繋がって、フードドライブと言ってめる方をやってくれたりね。
そこには市内の非常にたくさんの会社や農家が取り組んでくれたりして、そういう繋がりができてきている。
他の地区に負けない加須なりのネットワークっていうのがしっかりできてきてるというふうに思います。

（ナレーション）
コロナ禍で余った大量の学校給食の食材提供を受けた時、子ども食堂とフードパントリーとのつながりが生まれ、現在では「地域ネットワーク」として連携・協力をしています。
この日の子ども食堂のメニューはカレーライス。
食材の一部は、加須市内の企業などから支援を受けたものです。

（戸恒さん）
この規模だったら加須市でいいかな。
こんだけあるんだったら
周りのみんなに声をかけようと。
そういう風にネットワークでうまく対応できていると思うんですよね。

（ナレーション）
この日は、JAほくさいから子ども食堂やフードパントリーへ「梨」の支援がありました。
このように企業や農家などから支援を受けた際には、市内にとどまらず、近隣市町村の団体とも協力しあい、集荷や分配を共同で行っています。

（戸恒さん）
今日の場合はJAほくさいさん。
年間色んな作物を提供していただいたりして大変助かっています。
顔の見える関係、そこでやりとりできるというのが一番皆さん安心できますし、地域に根ざすっていうことが一番大事で、実際この4年間にだいぶ地域と密着するという形の支援がたくさん得られるようになってきて、定着してきているというところは、大いなる強みじゃないかなと思っています。
「ありがとうございます！」

（ナレーション）
さらに広く、県域で活動するネットワークも、こうした食品の支援などを受けています。
コープみらいは、子ども食堂やフードパントリーの県域ネットワークを通じて、県内の団体にお米の寄付を2020年度から毎月行っています。

（コープ未来理事長）
コロナ禍の中で格差がますます広がる
この社会を見ていて、我々生協が何かできることがあればということで、利益の中からお米を寄贈する取り組みを始めました。
１年間に73トンのお米を寄贈してまいりました。
その内30トンを埼玉県の皆さんのご協力を得て子ども食堂の方にお届けすることができました。
子供の健康と温かい居場所に貢献できればと思っています。

（ナレーション）
地域全体で子供の未来を応援したい。
食でつながる子供を応援する輪は、今、埼玉県全体に広がっています。

⑦「エピローグ」
（ナレーション）
いかがでしたでしょうか？

みんなで楽しくお腹いっぱい食べる。
学ぶことの楽しさを知る。
たくさんの大人や友達と遊び、ふれあう。
子供の居場所は、
自己肯定感や生きる力を育む場所として、
信頼できる大人に出会える場所として、
いま、必要とされています。

埼玉県では、子供の居場所に関するノウハウを有した「こどもの居場所づくりアドバイザー」を派遣したり、セミナーや相談会を開催したりと、子供の居場所の支援を行っています。

「子供の居場所」は、年齢や性別、職種にとらわれず、ちょっとしたきっかけで始めることができます。

子供の居場所を立ち上げてみたい、子供の居場所に関わってみたいという方は、「こども応援ネットワーク埼玉」からお問い合わせください。

（ナレーション）
今、あなたにもできることがきっとあるはず。
未来ある子供たちを地域の力で応援しませんか？

・PR 用告知動画

（ナレーション）

「子供の居場所」という言葉を聞いたことはありますか？

「子供の居場所」とは、家でも学校でもない、子供たちが安心して過ごせる「第3の居場所」。

今、地域で広がりを見せています。

今、あなたにもできることがきっとあるはず。

未来ある子供たちを地域の力で応援しませんか？

（子供の声）

「教えて！子供の居場所」